

## 2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
134031101	家庭科教育法C Teaching Method of Home Economics C	熊崎 稔子			2	選択	3前期

## 科目の概要

本科目はライフスタイル学科DPの(3)(4)(6)にある日常生活の衣・食・住などに関連する専門的知識・技能を身につけ、職場や地域に貢献できる人材育成の科目として位置づけられる。中学校の家庭科教員を育成するための知識や指導内容・方法を身につけるための指導をする。技術・家庭の「家庭分野」の学習指導要領の目標や学習内容を理解するとともに、教育実習を前提にした教材研究を行い、指導案を作成し、模擬授業を実施する。

学修内容	到達目標
① 中学校技術・家庭「家庭分野」における学習指導要領の目標を理解する。 ② 家庭分野の学習内容について理解する。 ③ 模擬授業のための学習指導案を作成し授業を実施する。 ④ 模擬授業から課題を発見し改善方法を考え実践する。 ⑤ 教員としての心得や姿勢について修得し実行する。	① 中学校技術・家庭「家庭分野」における学習指導要領の目標を説明することができる。 ② 家庭分野の学習内容を理解し説明することができる。 ③ 模擬授業のための学習指導案を作成し授業ができる。 ④ 模擬授業から課題を発見し改善方法を考え実践することができる。 ⑤ 教員としての心得を身につけ、実行することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	教員になるために自分のやるべきことを考え、自発的に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	目的達成に向かって粘り強く取り組むことができる。
考え抜く力	課題発見力	現状を正しく認識し、不足するところや改善点を把握できる。
	計画力	模擬授業の指導計画を立てることができる。
	創造力	社会の現状と生徒の実態を把握し、新しい発想で取り組むことができる。
チームで働く力	発信力	聞き手がどのような情報を求めているのか理解して伝えることができる。
	傾聴力	相手の意見をよく聞き、正確に理解することができる。
	柔軟性	
	状況把握力	自分が行ったことで周囲にどんな影響を及ぼすか考え、最良の結果が得られるよう取り組むことができる。
	規律性	遅刻、無断欠席など教員になるためのルールやマナーを理解して行動することができる。
	ストレスコントロール力	

## テキスト及び参考文献

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（平成29年7月）
- ・ 「技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ」開隆堂（令和7年2月）
- ・ 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 指導資料・事例集  
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

## 他科目との関連、資格との関連

家庭科教育法Cは専門科目の教職に関する科目の一部である。家庭科教育法A、家庭科教育法Bで学んできた基礎を踏まえ、より実践的な科目である。  
 資格との関連は中学校教諭一種(家庭)である。

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員になりたいという強い気持ちを持ち、学修すること。</li> <li>・ 教員採用試験を意識して、学修に努めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員になることを自覚し、遅刻、無断欠席、提出物の期限を遵守し規律をもって授業に臨むこと。</li> <li>・ 日々の生活から挨拶、人とのコミュニケーションの取り方などにも気をつける。</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	30	①	✓	中学校技術・家庭科「家庭分野」の目標と家庭分野のA・B・Cの内容について基本的な内容が理解できているかを評価する。 【獲得】中学校技術・家庭科「家庭分野」の目標と家庭分野のA・B・Cの内容を教えるための基礎知識：70% 【活用】中学校技術・家庭科「家庭分野」分野A・B・Cの内容の知識の活用：20% 【解決】課題を出題し、解決できる対応を考えることができるか評価する。：10%		
				②	✓			
				③				
				④				
				⑤				
	平常評価	小テスト		0	①			
					②			
					③			
					④			
					⑤			
		レポート		20	①			・授業内でのレポートや模擬授業の学習指導案を評価する。 ・他者の模擬授業へのコメントを評価する。 【獲得】中学校技術・家庭科「家庭分野」の目標についての理解：20% 【活用】学修内容を踏まえた、学習指導案の作成（題材名、題材目標、題材観、指導計画、評価の観点、本時の目標、指導過程、板書計画等を評価）：60% 【解決】模擬授業の振り返りをし、改善点をみいだすことができる：20%
					②			
					③	✓		
					④	✓		
					⑤			
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		40	①		・作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行う。 ・模擬授業の評価ポイントは講義時に伝える。 【獲得】講義を踏まえた領域や活動内容を設定できる：20% 【活用】計画した授業内容の実施やそのための説明ができる：60% 【解決】生徒にとって効果的な学習活動、学習の場となっている：20% 模擬授業を行う教師役だけでなく、生徒役として参加し、他者の模擬授業に対して自分なりの考えをもち、学ぶ姿勢やコメントも評価する。			
			②					
			③	✓				
			④	✓				
			⑤					
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	≪主体性≫模擬授業に向けて、新しい教材開発などに自ら積極的に取り組む。 ≪実行力≫できるまで粘り強く取り組み、日常生活へ実践的に活用することができる。 ≪計画力≫模擬授業の目的にあった授業計画を立てることができる。 ≪創造力≫社会や生徒の現状に合わせた新しい発想で教材を考える。 ≪発信力≫聞き手の状況を把握して伝えることができる。 ≪傾聴力≫相手の意見を正確に聞くことができる。 ≪規律性≫欠席連絡をする、提出期限を守る等、教員としてのルールやマナーが身についている。			
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S:家庭科の目標・内容について熟知しており、模擬授業において授業目標に対する確かな指導案が作成できる。指導案に沿った授業ができ、課題把握や改善もできる。人としての規律性も守られている。 A: 家庭科の目標・内容を理解しており、授業目標にあった指導案が作成できる。指導案に沿った授業ができ、課題把握や改善もできる。規律性も守られている。	B: 家庭科の内容を理解し、指導案が作成できる。指導案に沿った授業ができ、課題把握もできる。規律性を守ることができる。 C: 指導案を作成し、模擬授業をおこなうことができる。規律性を守ることができる。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	中学校 技術・家庭の目標、「家庭分野」の目標・内容構成について確認する。中学校における技術・家庭「家庭分野」が家庭科全体のどのような位置づけにあるかを把握する。	講義 質疑応答にてフィードバック	中学校技術・家庭科の家庭分野の目標が理解できる。	(復習) 目標と中学校家庭分野と高校家庭科の関係をまとめること。 (予習) 学習指導要領Aの内容を読んでくること。	150	主体性 発信力 傾聴力
2	学習指導要領に基づくA家族・家庭生活の内容について理解し、ポイントを把握する。その内容の教材研究をする。	講義 グループワーク 質疑応答にてフィードバック	自分の成長と家族や家庭生活との関わりが理解できる。	(復習) 家族・家庭生活の教材研究をまとめること。 (予習) 学習指導要領B食生活の内容を読んでくること。	180	主体性 創造力 傾聴力
3	学習指導要領に基づくB衣食住の生活と食生活について理解し、ポイントを把握する。その内容の教材研究をする。	講義 グループワーク 質疑応答にてフィードバック	食事の役割、栄養・献立、調理方法(煮る、焼く、蒸す)が理解できる。	(復習) 食生活の教材研究をまとめること。 (予習) 学習指導要領B衣生活・住生活の内容を読んでくること。	180	主体性 創造力 傾聴力
4	学習指導要領に基づくBの衣生活・住生活について理解し、ポイントを把握する。その内容の教材研究をする。	講義 グループワーク 質疑応答にてフィードバック	衣服の適切な選択・着用、日常着の手入れ、製作に関する知識・技能を身に付けることができる。 家族と生活空間との関わり、安全を考えた住空間の整え方が理解できる。	(復習) 衣生活・住生活の教材研究をまとめること。 (予習) C消費生活・環境の内容を読んでくること。	180	主体性 創造力 傾聴力
5	学習指導要領に基づくC消費生活・環境について理解し、ポイントを把握する。その内容の教材研究をする。	講義 グループワーク 質疑応答にてフィードバック	金銭管理と購入・環境に配慮した生活の知識及び機能を身に付けることができる。	(復習) C消費生活・環境についてまとめること。 (予習) 模擬授業をおこなう単元を考えてくること。教師としての心得などを調べてくること。	180	主体性 創造力 傾聴力
6	模擬授業と教育実習のための心構えについて理解する。 模擬授業のための教材研究と学習指導案を作成する。	講義 グループワーク 個人で指導案作成	教育実習に必要なコミュニケーション、服装について理解できる。 学習指導案を作成することができる。	(復習) 学習指導案を仕上げ、教材を準備すること。 (予習) 家族・家庭生活の内容の教科書を読んでくること。	180	主体性 計画力 創造力 傾聴力
7	模擬授業1 A家族・家庭生活の内容の授業を行い、課題を発見する。	授業担当者：30分の授業展開を実施することができ、自己の課題をみつける。 非授業担当者：授業の展開を観察し、改善点をみつける。	30分の授業展開を実施することができ、自己の課題を発見できる。	(復習) 模擬授業の課題をまとめること。 (予習) 食生活(食事の役割と栄養)の内容の教科書を読んでくること。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力
8	模擬授業2 B食生活(食事の役割、栄養)の内容の授業を行い、課題を発見する。	授業担当者：30分の授業展開を実施することができ、自己の課題をみつける。 非授業担当者：授業の展開を観察し、改善点をみつける。	30分の授業展開を実施することができ、自己の課題を発見できる。	(復習) 模擬授業の課題をまとめること。 (予習) 調理と食文化の内容の教科書を読んでくること。	150	主体性 実行力 課題発見力 計画力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	模擬授業3 B食生活(調理と食文化)の内容の授業を行い、課題を発見する。	授業担当者：30分の授業展開を実施することができ、自己の課題をみつける。 非授業担当者：授業の展開を観察し、改善点をみつける。	30分の授業展開を実施することができ、自己の課題を発見できる。	(復習) 模擬授業の課題をまとめること。 (予習) 衣服の選択と手入れの内容の教科書を読んでくること。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力
10	模擬授業4 B衣生活(衣服の選択と手入れ)の内容の授業を行い、課題を発見する。	授業担当者：30分の授業展開を実施することができ、自己の課題をみつける。 非授業担当者：授業の展開を観察し、改善点をみつける。	30分の授業展開を実施することができ、自己の課題を発見できる。	(復習) 模擬授業の課題をまとめること。 (予習) 安全な住まい方の内容の教科書を読んでくること。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力
11	模擬授業5 B住生活(住居の機能、安全な住まい方)の内容の授業を行い、課題を発見する。	授業担当者：30分の授業展開を実施することができ、自己の課題をみつける。 非授業担当者：授業の展開を観察し、改善点をみつける。	30分の授業展開を実施することができ、自己の課題を発見できる。	(復習) 模擬授業の課題をまとめること。 (予習) 金銭の管理と購入の内容の教科書を読んでくること。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力
12	模擬授業6 C消費生活・環境(金銭の管理と購入)の内容の授業を行い、課題を発見する。	授業担当者：30分の授業展開を実施することができ、自己の課題をみつける。 非授業担当者：授業の展開を観察し、改善点をみつける。	30分の授業展開を実施することができ、自己の課題を発見できる。	(復習) 模擬授業の課題をまとめること。 (予習) 持続可能な社会の内容の教科書を読んでくること。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力
13	模擬授業7 C消費生活・環境(持続可能な社会)の内容の授業を行い、課題を発見する。	授業担当者：30分の授業展開を実施することができ、自己の課題をみつける。 非授業担当者：授業の展開を観察し、改善点をみつける。	30分の授業展開を実施することができ、自己の課題を発見できる。	(復習) 模擬授業の課題をまとめること。 (予習) 災害時の状況についてまとめること。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力
14	私たちの防災 家庭科で学ぶ知識を防災や災害時に活かす	講義 グループワーク 質疑応答にてフィードバック	災害時をイメージし、平常時からの備えを考えることができる。 家庭において、災害時の備えを見直すことができる。	(復習) 災害時の生活の立て直しについてまとめる。 (予習) 災害時に備える備蓄食品、パッキングについてまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力
15	災害時に備える備蓄食品 備蓄食品の活用	演習(調理：パッキングの実践) グループワーク	備蓄食品の非常食と日常食品の違いを説明することができる。 パッキングで調理することができる。	(復習) 災害時に備え、家族と話し合うとともに、ローリングストックについて見直す	180	主体性 実行力 創造力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

## 2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
134032102	家庭科教育法D Teaching Methods for Home Economics D	佐橋 那央子			2	選択	3後期

## 科目の概要

中学校家庭科の目標および育成を目指す資質・能力を体系的に理解し、学習者が主体的に生活を営むための指導法の基礎を探究する。衣・食・住の各領域における主要な学習内容を整理し、ライフスタイルのデザインに不可欠な専門的知識・技能（DP3）の要点を把握するとともに、学習指導理論を踏まえた実践的な授業設計の手法を身に付ける。これらの過程を通じて、人々の日常生活や地域活動を支援できる実践的な視点（DP4）を養う。さらに、生涯学習社会において自己の潜在能力を開発し続け、職場や地域・国際社会の課題解決に貢献できる（DP6）教育者としての基礎的な資質を育む。

学修内容	到達目標
① 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編の目標を整理し、その背景にある考え方や学習内容について理解を深める。 ② 家庭科の特性や現代の生活課題を捉えた教材研究を行い、日常生活の支援を見据えた論理的な学習指導案を作成する。 ③ 学習者の主体的な学びを引き出す指導技術を学び、模擬授業を行う。	① 中学校学習指導要領（平成29年告示）における家庭科の目的や学習内容を正しく理解し、その構成と要点を適切に説明することができる。 ② 専門的知見を活かして教材研究を行い、日常生活を支援する視点を持った論理的な学習指導案を作成することができる。 ③ 適切な指導技術を用いて模擬授業を実践し、事後の振り返りを通して自己の課題と改善策を具体的に示すことができる。

## 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

## 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	授業内容を自ら研究し、意欲的に指導案作成に取り組める。
	働きかけ力	模擬授業で模擬授業受講者（生徒役）の興味を引き、活動を促す問いかけができる。
	実行力	多様な指導手法を検討し、実際に教材・指導案として形にできる。
考え抜く力	課題発見力	生徒のつまづきを予想し、最適な指導方法を考案できる。
	計画力	授業時間内に収まる論理的な展開と時間配分を構成できる。
	創造力	独自の工夫を凝らした教材や提示方法を授業に導入できる。
チームで働く力	発信力	声・表情・板書を工夫し、意図を明確に模擬授業受講者（生徒役）に伝えられる。
	傾聴力	他の学生の授業を真摯に聞き、適切な分析と評価ができる。
	柔軟性	助言を前向きに受け入れ、指導案の改善に活かせる。
	状況把握力	生徒の反応を察知し、臨機応変に指導を調整できる。
	規律性	期日厳守や準備、教員としての身だしなみを整えられる。
	ストレスコントロール力	緊張や不測の事態でも冷静に授業を継続できる。

## テキスト及び参考文献

<テキスト>  
 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」文部科学省「自立とともに支え合う生活へ」開隆堂  
 <参考文献>  
 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編 文部科学省  
 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校 技術・家庭）』国立教育政策研究所教育課程研究センター

## 他科目との関連、資格との関連

これまでに受けてきた家庭科教育法A、B、Cによる指導方法や指導案の書き方をさらに、自らの理解やより良い指導方法を検討する。そのためには栄養や被服、家庭経済など家庭科に関する科目全般の知識を生かし家庭科教員として中学校教諭一種（家庭）及び高等学校教諭一種（家庭）の教員としての資質を高めていく。

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>日々のニュースや身近な出来事にアンテナを張り、「これをどう中学生に伝えれば、生活の支援に役立つか」考える習慣をもちましょう。</li> <li>教科書だけでなく、家庭科に関する本やテキストを積極的に手に取ってください。自ら進んで学ぶことで、専門的知見をさらに深めていきましょう。</li> <li>模擬授業や課題を通して自分の得意・不得意を知り、自分の力を伸ばそうとする前向きな姿勢を大切にしてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻や早退を避け、全員で集中して取り組める環境づくりに協力してください。</li> <li>模擬授業で使用する教材、道具、配布資料などは、「どのような資料があれば学習者に伝わりやすいか」を自ら考え、各自で責任を持って準備してください。</li> <li>お互いの発表を尊重し、良い点や改善点を積極的に共有し合うことで、クラス全体で実践力を高めていく姿勢を大切にしてください。</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
		レポート		40	①	✓	
					②	✓	
	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		50	①	✓		
②				✓			
③				✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）		10	①			
				②			
				③	✓		
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S:【レポート】専門知識を独自の工夫で展開し、極めて説得力のある論理的な記述ができる。【成果発表】中学生の意欲を高める高い技術を用い、極めて円滑かつ効果的なプレゼンができる。【社会人基礎力】常に主体的な姿勢で、他者の成長に繋がる高度なコミュニケーションや協調性を発揮している。</p> <p>A:【レポート】講義のポイントを理解し、自分の考えを具体的かつ丁寧な内容で記述できる。【成果発表】適切な技術を用いて、学習者に伝わりやすい円滑なプレゼンができる。【社会人基礎力】真摯な態度で受講し、期限遵守や他者への助言など適切なマナーを身に付けている。</p>	<p>B:【レポート】専門知識を概ね活用し、指定された要件を満たした内容で記述できる。【成果発表】指導案に沿って、大きな滞りなくプレゼンを完遂することができる。【社会人基礎力】適切に受講しており、期限を守るなどの基本的なルールを遵守している。</p> <p>C:【レポート】基本事項を理解し、標準的な内容で記述されている。【成果発表】準備された資料に基づき、最後までやり遂げることができる。【社会人基礎力】受講態度に特段の問題がなく、最低限の条件を満たしている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	ガイダンス 現代の教育課題と家庭科の概要	講義 グループワーク	本授業の目的を理解し、現代の教育課題に対応した家庭科授業の在り方を説明できる	〈予習〉自身の受けた家庭科教育を振り返り、現代の視点から課題を整理する 〈復習〉「令和の日本型学校教育」における家庭科の役割をまとめる	180	主体性 傾聴力 規律性
2	学習指導要領の解説と「三観点」による学習評価	講義 グループワーク	家庭科の目標と三観点の定義を正しく理解し、評価場面を例示できる	〈予習〉学習指導要領解説(技術・家庭編)の目標部分を精読する。 〈復習〉三観点に基づく評価指標案を1つ作成する	180	課題発見力 計画力 規律性
3	教科書分析と教材研究の視点を読み解く	講義 グループワーク	教科書の内容を分析し、現代的な生活課題と結びついた教材研究ができる。	〈予習〉指定教科書の担当希望分野を精読する 〈復習〉単元のねらいと指導の重点を明確にする	180	主体性 課題発見力 創造力
4	学習指導案の構成・作成	講義 グループワーク	学習目標の達成に向けた論理的な授業展開を構成し、指導案の初案を作成できる	〈予習〉指導案の標準的な書式を再確認する 〈復習〉学習指導案(初案)を完成させる	180	実行力 計画力 規律性
5	指導案の相互検討	講義 グループワーク	他者の視点を取り入れて指導案を客観的に評価し、改善案を提示できる	〈予習〉検討用に自身の指導案を整理・複製する 〈復習〉検討会での助言を元に指導案を修正する	180	発信力 傾聴力 柔軟性
6	ICT・デジタル教材の活用術	講義 グループワーク	タブレット端末等を効果的に活用した授業場面を立案・試行する	〈予習〉家庭科におけるICT活用事例を調査する。 〈復習〉授業で使用する提示資料(スライドや動画)を完成させる。	180	実行力 課題発見力 創造力
7	模擬授業のシミュレーションと最終準備(板書計画、教材・教具の準備)	講義 グループワーク	板書計画や教具の提示、生徒への問い返しを想定したりハーサルができる	〈予習〉板書計画図(黒板の構成)を作成する 〈復習〉模擬授業に必要な備品・資料を最終確認する	180	実行力 計画力 ストレスコントロール力
8	模擬授業(1):【導入】の技術と課題提示	模擬授業 グループワーク	学習意欲を高める導入を行い、本時の課題を明確に提示できる	〈予習〉導入5分間のセリフと教具提示の手順を練習する 〈復習〉事後検討会での指摘事項を振り返り、改善案をまとめる	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	模擬授業(2):【展開】の技術:板書と情報構造化	模擬授業 グループワーク	学習の流れが視覚的に理解できる板書を行い、授業を進行できる。	〈予習〉板書の構造化(チョークの色使い等)を最終確認する 〈復習〉自分の板書写真を分析し、改善案を記述する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
10	模擬授業(3):【展開】の技術:発問と問い返し	模擬授業 グループワーク	受講者(生徒役)の意見を拾い、次の学びに繋げる問い返しができる。	〈予習〉生徒から出そうな質問・反応を3パターン想定しておく 〈復習〉対話場面のリフレクションを行い、発問リストを改善する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
11	模擬授業(4):【実技・実験】の指導と安全管理	模擬授業 グループワーク	家族・家庭分野の授業を実践し、事後検討を通じて授業改善の手立てを導き出せる	〈予習〉生徒から出そうな質問・反応を3パターン想定しておく 〈復習〉対話場面のリフレクションを行い、発問リストを改善する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
12	模擬授業の実践と事後検討(5)消費生活・環境	模擬授業 グループワーク	安全に配慮した実技指導の手順を示し、適切な助言ができる	〈予習〉実技場面での事故防止チェックリストを作成する 〈復習〉効率的かつ安全な実技指導の動線を再考する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13	模擬授業(6):【自由テーマ】自分の強みを活かす授業	模擬授業 グループワーク	独自の意図を持った授業を構成し、制限時間内で実践できる	〈予習〉自由テーマの指導案と教材を完遂する 〈復習〉他者からの評価を分析し、自身の指導上の強みを特定する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	模擬授業(7):【総合】実習直前・統合的実践演習	模擬授業 グループワーク	一連の指導技術を統合し、中学生を対象とした授業を円滑に完遂できる	〈予習〉全回を通じた自身の課題を反映させた最終指導案を準備する 〈復習〉実習に向けた自身の「授業改善シート」を完成させる	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	総括・授業リフレクション	講義 グループワーク	自身の指導力の変容を客観的に分析し、具体的な今後の改善策を提示できる	〈予習〉自身の評価記録や成果物を見返す 〈復習〉最終レポートを完成させる	180	主体性 傾聴力 柔軟性 状況把握力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力